

中老の心得

浮気住吉神社

会計より支出確認（8月上旬～中旬）

- 1 神事中年長に会計から松明の柴及び孟宗竹の購入代金を支出してよいか確認

柴の依頼

- 1 8月中旬から下旬にかけて栗東市森林組合に松明購入手続きをを行う。
- 2 柴の束数は35束 綾柴は12束 枯れ柴は神社保管のものを使用(12束位)
- 3 依頼に行く時に手土産持参…領収書を持って行く。

背竹の依頼

- 1 前年度使用した孟宗竹の使用可否を調べる
- 2 背竹は新品にする方がよい
- 3 背竹の長さは4.5～5m位で末口7cm～8cm
- 4 8月～9月くらいで調べておく。

松明柴取り

- 1 柴取りは12月上～中旬に実施する 運搬に要した金額は領収書で証明
- 2 手土産（領収書…要）

柴及び孟宗竹の購入代金の準備

- 1 柴、綾柴、孟宗竹の代金、柴、孟宗竹の依頼及び購入時の手土産代金、柴及び孟宗竹、柴受け取り時の祝儀、松明結いの荒縄代金、柴運搬時の慰労費、1月3日の松明結い諸費、大祭当日の諸費を概算して11月中旬までに通帳より準備をしておく。

寄進松明の有無　松明結い場所の確認

- 1 全部で松明は6本。その内3本が寄進松明の枠である。
- 2 寄進松明有無を柴運搬日までにまとめておく。
- 3 神事中年長に1月3日の松明結いの場所を確認しておく。

柴運搬の車手配と運搬協力依頼

- 1 柴の運搬協力を知新連年長に依頼する。また、運搬日を決定する。（予備日も計画）
- 2 柴運搬の車を手配（本日、予備日、ボディーロング車）

柴の準備確認

- 1 12月上旬…1週間前に下見に行く。
- 2 柴の運搬協力依頼前に柴の結束確認及び前々日くらいに再確認。

運搬前の準備

運搬日の運搬後行う慰労の品物または酒食品（領収書…要）

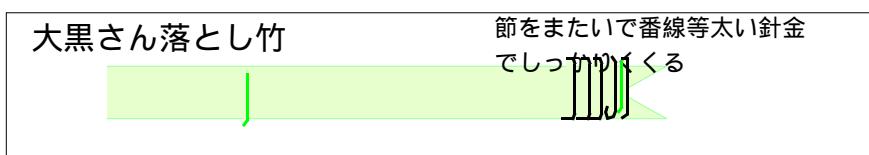
柴の運搬

- 1 柴運搬協力者への慰労　　2 柴運搬の運賃支払い（領収書…要）

松明結い前の準備確認整備（12月下旬）

- 1 触れ太鼓の担ぐ竹（孟宗竹4m位）及び撥（ばち）
- 2 太鼓の据付台
- 3 松明飾り台（二股の台）
- 4 松明結いの荒縄35束～40束（松明1基で6～7束）その他に左義長で2束
- 5 大黒さんを止める竹　長さ1.2m～1.3m末口径3～3.5cm位　先をとがらせる。

- 6 松明を飾つておく時の滑り止め杭 長さ40cm 未口径4cm元はとがらせる
- 7 日の丸小旗（汚れている時は洗濯アイロン）
- 8 松明を納める台（杭、支え杭、台木）
- 9 松明台止め針金（生し鉄線 12
- 10 菜種殻 約20束 仮屋へ入れる
- 11 足踏み脱穀機2台
- 12 松明結い作業具
 (1)押し切り (2)鋸（木用）(3)木の葉かき (4)鎌（草刈り用）3丁 (4)ムシロ12
 (5)松明運搬リヤカー (6)木ばさみ
- 14 松明を納める台の作業用具
 (1)スコップ丸2丁 角3丁 (2)一輪車 (3)番線切りペンチ (4)シノ (5)バール
- 15 護摩刷り用具・準備物
 (1)ハサミ (2)竹鋸 (3)木ガマ (4)竹皮 (5)皿 (6)赤スタンプ (7)洗濯用のり
 (8)美濃紙280×385mm100~150枚 (9)のし紙184×257mm100~150枚
 (10)墨汁1瓶 (11)半紙1折り (12)水引 (13)麻緒
- 16 花の筒準備物確認 … 花の筒との連絡を取り合う
- 17 松明結いの御神酒その他（領収書…要）
 (1)御神酒3本 (2)さきイカ (3)茶菓子 (4)みかん1箱 (5)杯30個 (6)お茶
 (7)湯飲み20個位
- 18 松明を飾つておく時
 (1)ビニル幕透明 1.8m×2m位6枚 (2)荒縄 (3)杭1.2~1.5 数本 (4)松明札
 神事中、知新連、祈祷、寄進者用 様 3枚 半紙1/2の大きさ
- 19 松明大祭準備物（領収書…要）
 (1)貸出用法被（社務所押入に有り） (2)御神酒1本式典の時供える《花の筒で購入》 (3)肴 さきイカ、お好み等 (4)豆絞り50~80本 (5)領収書 住吉神社
 名印刷で玉串料、献酒、松明寄進者用 (6)プラスチック掲示札…2004年2月竹
 内重雄氏寄進 (7)案内状 (8)消防署依頼 (9)道路通行許可証 (10)杯 (11)大
 黒さん落とし竹 2本 (12)バケツ2杯 水をかぶる時使用 (13)松明納入順
 番表



- (14)松明札 半紙1/2
 案内状、道路通行許可証（責任者名と印鑑要）消防署依頼は神事中年長に連絡後
 自治会長と相談すること
- (15)車代…神社会計 神主女官、但し、昼夜ともに送迎した場合は不要 …神主女官の依頼及び送迎は花の筒が行う。…現在は自家用車で参拝される
- (16)受付に必要なもの
 すずり、筆ペン大小 糊押しピン 電卓 領収書（神社名入り）
- 20 松明結いのふれ
1月2日午前中服装を整え、氏子全員（別表）に正月挨拶を交わし「住吉神社中老よ
 りですが、1月3日8時30分から松明結いを行いますので出席をお願いします」と
 ふれ回る。

2.1 松明結い

(1) 8時00分までに作業用具及び材料を所定の場所に整える。

(2) 御神酒、肴、お茶の準備

(3) 社務所及び会議所の準備

(4) 参加者の確認

年長はじめ御一統集まれば、神事中年長より正月の挨拶を行い、併せて松明結い

出席の御礼挨拶行ってもらう。中老より、作業分担を行い、御神酒を注ぎ肴を出す。

作業分担：大黒づくり 本体づくり 寄進者の確認と設置場所

(5) 昼頃で作業の進み具合を見て、再調整の必要有れば指示

(6) 松明の完成した時、飾り場所を指示

(7) 松明台、太鼓、太鼓台、護摩刷り、御弓、矢、的、柳箸、松明 それぞれ完成したか確認する。

(8) 寄進松明で家に飾られる場合は場所を指示

(9) 松明を飾る時は尾がずれないよう確認しておく。その後、荒縄で囲いをして大黒さんが雨水等でぬれないようビニールで覆いをする。松明札をつけること

(10) 松明結いが終了した後社務所に集まるよう指示

(11) 社務所で着席された後、御神酒、肴を出して挨拶する。

「中老より一言ご挨拶申し上げます。本日は、年長様はじめご一統様には、朝早くから寒い中出て頂きましてありがとうございました。また、松明結いならびに大祭の準備を滞りなく終えて頂き重ねて御礼申し上げます。ささやかではございますが、御神酒をご用意しておりますのでお召し上がりください。」

(12) つづいて、年長より挨拶「 」その後、大祭当日の役、宿、注意事項を年長より確認指示。

(13) 1月3日社務所において年長より次のことを確認する

年長より確認事項

衆祀参り時刻 午後6時30分

神事中役割 拝所番 年長より1, 2番の人

仮屋番 " 3 4 "

暁押さえ " 5 6 "

見回り " 7 8 "

松明の引き方 東西へ各3本づつ

東方 安寿さん横 西方 神社横 東方 敬次さん裏東側

西方 神社横西側 東方 敬次さん裏西側 西方神社横東

御弓式 紿仕人1名 後厄43歳 射手2名 本厄42歳

給仕人 2名 数え年21歳の者

条則読み 前年度の次の若い者

御弓式、給仕人がないときは、上位の者が下がって行う。

屯所 神事中 ... 家 知新連中 ... 家

宿 神事中 社務所 知新連中 自治会館

来賓者数 花の筒へ

消防署、警察への許可書提出確認 中老へ

約束事 御老院の平癒の声かかるまではかたく禁ず

松明を引く時及びおろす時の注意...大きな声で「声を出し合うこと」

神社へ入る時、神主の祝詞の際、仮屋の中 それぞれ静粛に

太鼓用バチの先および手元をしっかり丸めておくこと

大祭前日

1 御鏡の重ね結い(餅くくり)

細わら縄は花の筒で用意する

花の筒(餅当番宿)へ出向いて細わら縄で男結びで十文字及び横一または2回十

文字の上は提げられるようにもう一回男結び

重ね方 5段 1組 本宮用 3段 2組 脇宮用

過去: 6段 1組本宮用 5段 2組脇宮用

花の筒代表家で御神酒の接待があればいただく。

2 日の丸小旗揚げ

大祭前日の夜遅く松明の大黒さんに覆いをしたビニルシートを取り外し松明札の上側に旗を掲げる(人に見られないように?) 御神酒持参

大祭当日

(1)仮屋の菜種殻を愛宕の鳥居横に移す。

(2)松明奉納順序書を御手洗拝殿側に掲示

(3)受付準備

(4)一般より玉串料、献酒受付(領収書要)

(5)松明宮入前の御神酒、肴、杯、豆絞り手拭いを拝殿前に準備

(6)玉串料、献酒のあった氏名札(プラスチック板)を社務所外壁面に掲示

(7)10時の式典参列

玉串奉納手順は別紙

(8)御弓式参觀

(9)太鼓の宮入前の御神酒

知新連年長責任によって太鼓を宮入させてるので、祝盃を出す。

12時00分知新連中は雲藏寺本堂前に準備してある太鼓を村中に威勢よくふれ太鼓して宮入して本宮前で威勢よく打ち鳴らし拝み納める。

(10)松明納入

中老の責任において知新連により松明を担ぎ、中老が先導して宮入する。

松明飾り台は中老が運ぶ。但し、早く宮に入れないこと。台が鳥居をくぐったあと、松明が入っていない場合、台を外に出せない。松明を担いでいる途中で落とさないこと。

松明の配列は、向かって右側より納める。

寄進松明で御神酒、肴をいただいた時は状態により振る舞い、またご披露する。

寄進松明が寄進者の家等に飾ってある時は礼を述べ威勢よく担ぐこと。

祈祷松明は氏子全員で担ぐよう頼み宮入した時は、向かって右側より本宮前に進み、本宮参拝し威勢よく3~4回高く掲げ太鼓を威勢よく打ち鳴らし、氏子に祈祷松明の宮入したことを告げる。

松明の大黒さん、涎掛け(よだれかけ)止め縄が外されているか確認

松明札及び日の丸小旗の配列を直す。

松明の無事奉納したこと拝所番(拝殿)に「無事めでたく納まりました」と報告する。拝所番より「ご苦労さんでした」と慰労の言葉がある。

大黒さん落としの竹を拝殿下に配置する。客に怪我のない場所に置く。

衆シ参り

- (1)屯所へは早めに出向いて湯茶の準備
- (2)神事中の提灯のろうそくを確認して蔓を延ばし、玄関横に置いておく。
- (3)屯所に参集された方の湯茶の接待をする。
- (4)衆シ参りの時間近くになっても参集していない人があれば連絡する。
- (5)年長より約束事の確認がある。
- (6)年長より出発の言葉と知新連に連絡の依頼がある。
- (7)一人は知新連に出向いて「神事中より申し上げます。神事中ただ今より参詣しますので引き続き知新連中も参詣願います」と告げる。
- (8)残っている中老（中老が一人の時は下位の人が神事中の提灯に明かりをつけ前後に分かれて遂列を待つ。（年齢の若い順にならび 宮さん前でいったん行き過ぎ回れ右をし、年上から宮入する）
- (9)宮前まで来た時に宮前を通り過ぎ、後ろの提灯が橋前になるまで進み止まる。
- (10)参詣の遂列は向きを変える。
- (11)後ろの提灯の人は年長を先導し、御手洗に進む。
- (12)前提灯の人は御手洗へ進み待つ
- (13)御手洗を照らす提灯の人は手洗いを行う人の提灯または手松明とバチを預かる。
- (14)後提灯の人は手洗いの済んだ年長を先導して本宮参詣し太鼓を照らし全員の済むまで照らし続ける。
- (15)御手洗が全員済めば手洗いを行って本宮参詣し太鼓を打ち鳴らして拝殿前の神事中前列両側に立つ。
- (16)続いて知新連の参詣
- (17)全員拝殿前に整列した後、神主の祝詞及びお祓いがあり、神主が引き上げる。
- (18)神事中前列右側の提灯の人は、年長を先導して仮屋へ、入り口で提灯を照らす。
仮屋へ神事中が入り終わるまで照らす。
- (19)神事中後尾の提灯は後尾につき、前の提灯の人と仮屋に入り明かりを消す。

仮屋での祝盃

- (1)神事中全員が仮屋に入ったことを確認してから、「お年寄り集に申し上げます。これで神事中全員揃われましてございます。」と大きな声で報告する。
- (2)年長より給仕人2名の依頼があった後、中老1名は知新連（龍青会館）へ出向いて「知新連年長さんに申し上げます。給仕人2名（正装：紋付き羽織、襟白房、白足袋）仮屋までご足労願います」と大きな声で告げる。
- (3)知新連年長は給仕人2名を給仕に遣わせる。
- (4)給仕人2名は仮屋に出向き中老の両脇に正座する。
(お年寄り衆に申し上げます。 ...)
- (5)給仕人2名が正座した後、中老は、「お年寄り衆に申し上げます。給仕人2名揃われました」と大きな声で報告する。
- (6)給仕人揃った報告が一呼吸間をあいて、
(7)「ただ今より一献の盃を差し上げとうございます」と大きな声で告げる。
- (8)給仕人2名は立って、上座床の間に準備してある杯と雄蝶雌蝶、上座に進み、盃と蝶をもって、下座中老前まで進み、正座する。
- (9)一呼吸おいて、中老の毒味が済んだ後、上座の年長の位置一步手前まで進み一步後退して止まり、正座する。...別紙給仕心得を参照
- (10)給仕人は同位置で袴に注意して精査した後盆にのせた杯を左に蝶を右に置く。
- (11)一礼して盆にのせた杯を年長に差し出す。
- (12)年長は給仕人の一例の後一礼し杯を両手で受け取り、御神酒の注ぎを待つ。
- (13)給仕人は盆を置いて蝶を持ち、注ぎ口を軽く杯に添え、一回目目を注ぎ、軽くもどして、二回目、三回目を注ぐ。
- (14)年長は御神酒をいただき、一礼をして杯を返す。
- (15)給仕人は盆に持ち替え、杯を盆で受け取る。
- (16)給仕人は、盆を元の位置に置いて一礼する。
- (17)給仕人は次の人に移るため立って袴を注意しながら蟹の横歩きで次の人の前に進む。
現在はそのまま横に移動している。但し、たまに立って袴を整えるとよい
- (18)次の人も同様に行う。中老まで給仕をした後、中老の横に正座する。
- (19)中老は、一呼吸おいて「引き続き二献の杯を差し上げとうございます」と大きな声で告げる。
- (20)給仕人は同様に年長前まで進み出て一巡給仕をする。終われば同様中老の両横に正座する。
- (21)中老は、「引き続いて、三献の杯を差し上げとうございます」と大きな声で告げる。
- (22)年長より、「三献の杯はめでたい杯ですので知新連中共々祝とうございます。」という声に従って、中老一名が龍青会館へ出向く。
- (23)中老は一名は、「神事中より申し上げます。三献の杯はめでたい杯であり、知新連中共々祝とうございますので、仮屋までご足労願います。」と大きな声で告げる。
- (24)給仕人2名は知新連中が仮屋に入るまで盆を持って上座前列まで進み、正座して待つ。
- (25)知新連中年長より、「お年寄り衆はじめご一統様にはご苦労さんです。」と大きな声で述べて上座より四人ずつ座る。中央はあけておく。
- (26)中老は、知新連中全員揃ったことを確かめ、「お年寄り衆に申し上げます。知新連中これで全員揃われました。」と報告する。
- (27)給仕人は、年長に杯を差し上げ、次ぎに知新連中年代表2名に杯を差し上げる。
- (28)年長は、一呼吸間をあいて条則を読み上げる人を依頼する。

- (29)条則を読む人は条則を読みながら役割につくのを確認して次の条則に移る。
- (30)役割を受けた人は、配置につき、暁押さえの人は、日の丸小旗を松明の背より抜いて準備する。
- (31)仮屋においてお年寄り衆の平癒の声かかるまでは誰人も無言
- (32)お年寄り衆の平癒の合図で威勢よくかけ声を掛けながら、一の火（奉火）を待つ
- (33)一の奉火の人は松明の東側に奉火する。
- (34)それぞれ奉火後、本宮に参拝し、太鼓を打ち鳴らし拝殿の回り舞う。
- (35)中老は一の火を確認し、手松明に点火し、参拝後大黒さん落としに廻る。
- (36)暁押さえの合図により、祈祷松明から威勢よく担ぎ出し、順序により引き松明を行う。
- (37)最後の神事中松明を退いた後速やかに威勢よく太鼓を打ち鳴らし雲藏寺本堂前まで引く。
- (38)給仕人は太鼓の引けた後、拝所番に「松明が無事納まりましておめでとうございます」と挨拶する。
- (39)花の筒の人が消防団関係者に慰労の酒を渡し、引き上げてもらう。
- (40)花の筒の人は、仮屋本宮拝殿社務所の火の始末及び、戸締まりを行って引き上げる。
- (41)龍青会館は、知新連年長の責任において火の始末戸締まりを行う。

灰かき

知新連中年長の責任において朝 時 分より松明台および灰の始末を行う。

知新連中一軒に一人出席

参加不参加者の確認

中老は、1月3日松明結い、藁持参者、大祭出席者、松明解体の出席者を記録しておく。知新連中年長は、大祭翌日の灰かき参加者の記録をとておく。

九日の勘定（大祭翌日）

- (1)朝、献酒、御鏡、お供え物、御幣、勘定帳箱、電卓、貯金通帳、玉串料、支払い残金、領収書、祝袋（愛宕宮代参料、知新連中慰労金用）を持って社務所に出向く。8時
- (2)9時より解体作業に備えて準備をする。
- (3)解体後、午後1時より勘定及びお返し準備、お返し作業に入る。
- (4)支払いを済ませる
- (5)会計に従って説明を行う
- (6)神事中宴席料理の依頼
- (7)神事中退連者の土産等準備をする。
- (8)知新連中よりの入連者確認とその準備
- (9)愛宕宮代参者の代参料を準備する
- (10)次期の花の筒確認
- (11)神事中宴席前の提案事項確認
- (12)今年度の会計担当により勘定報告書作成依頼

御鏡渡し

- (1)知新連中、一の火、次期花の筒、へ御鏡を渡す。残りは、お返しと焼き餅に使う。
- (2)お供物配布を皆に依頼する。
- (3)夜の宴席者の確認
- (4)会計担当者に現金、領収書、メモを渡し、説明する。
- (5)知新連中年長に慰労金、酒、餅を取りに来るよう連絡する。併せて、松明料を納入するよう通知する。

夜の宴席準備

最初は、御神酒で祝うので銚子 3 ~ 4 本燭をせず準備する。

夜の宴席

(1)神事中年長退連者およびごー統様の着席後、中老より大祭に対する御礼の言葉を述べる。

「1月3日松明結い、ならびに大祭準備び対し、寒い中出て頂き滞りなく準備して頂き、昨日の大祭も無事怪我なく年長様はじめごー統様の協力により終わらせて頂きましてありがとうございました。お酒は、十分準備しておりますのでごゆっくりとお召し上がりください。」

(2)年長より、大祭の無事終了した報告の後、会計報告の依頼がある。

(3)年長より退連のある時は退連者紹介と退連者に対する挨拶（退連者の正面に席を替え、代表して挨拶する）

(4)退連者の挨拶を受ける

(5)大祭その他について提案事項があれば提案して協議決定または依頼事項であれば依頼する。

(6)乾杯

(7)乾杯後は燭酒を出す。

(8)宴席の中程にて年長より、知新連中より入連される方の杯渡し、または、知新連中に依頼事項があれば知新連中年長 2 名を招くための依頼がある。

(9)中老は、年長に連絡事項を確認して「ただ今より知新連中へ の連絡に行きます」と伝え連絡に出向く。（神事中より 2 名選任し依頼する。）

(10)選任された 2 名は、「神事中より知新連中に申し上げます。神事中入連者または、のため年長様 2 名を神事中までご足労願います。」と大きな声で伝える。

(11)神事中入連者または、知新連中年長と一緒に神事中に引き返す。

(12)社務所に戻れば、直ちに、年長に「入連者 名または、知新連中年長 名ご足労願いました。

(13)知新連よりの入連者または年長は「知新連中よりの入連者 名または年長 名参りました。

(14)神事中年長より労いの言葉と依頼事項反省事項等の有無を確認される。

(15)知新連中 名は席の度合いを見て退席する。

(17)中老が知新連中より招聘（しょうへい）を受けるのは知新連中招聘者が来た時で年長より許可があってから知新連中に出向くこと。ただし、神事中退連者の退席までには帰ること。

(18)退連者の退席の言葉があれば神事中総員で見送る。

(19)年長より宴席の終わりの挨拶までは退席しない。

(20)宴席の後始末をして帰る。

備考

知新連の年長と中老の区分けとして

・知新連中の年長は九日汁までとして、その翌日より中老として役目に入る。

昭和 58 年 3 月 6 日神事総会で確認